

「女性のキャリアの保健室」アンケート調査 分析結果

1 年齢層別

(1) 悩み事

20代～30代は「育児」や「出産」、40代以降は「育児」が引き続き働くうえでの障がいとして挙げられている。事業所に産休、育休制度があったとしても、職場復帰後の子どもの体調不良や、子どもを一人で留守番させることへの不安、習い事の送迎ができないなど、長期間にわたって育児との両立に悩むケースが多いようである。

(2) キャリア形成の価値観

全体として、「自分の技能や専門性の向上」を重視する割合が高いが、30代～40代では「責任のある役割を担うこと」も増加傾向にある。一方で、現在の職場にキャリアアップを図るための制度や仕組みがないために、転職や起業を考える女性が多いと思われる。

(3) 必要とされるアドバイス

若年層には「ライフステージとの両立サポート」、中高年層には「専門性や経験の活用支援」を提供することが望まれる。

2 配偶者・子ども有無別

(1) 悩み事

「子ども有」の人々は、働くうえで育児関連の障がいが多く、配偶者がいる人は「家庭内での役割分担」を課題とする傾向が見られる。30代以降では、育児、介護、家事負担、家族の協力が不在が仕事を続けるうえでの障がいとして挙げられており、性別役割分担意識が未だ根強く残っていることがうかがえる。

(2) キャリア形成の価値観

子どもがいる場合は「技能活用」を重視しつつ、責任ある役割に対する関心が高めである。

(3) 必要とされるアドバイス

配偶者や子どもの有無に応じた相談内容に対応し、キャリアと家庭生活のバランスに関する具体的な助言が必要である。さらに、産休・育休中の事業所との関わり方、情報収集の仕方などを伝えるとともに、限られた時間の中でどのようにキャリアアップを図るのかといったアドバイスが必要となる。

3 業種別

(1) 悩み事

製造業、教育・福祉などでは労働条件や業務内容に対する不満が高く、他の業種に比べて「結婚」「育児」関連の課題も顕著である。労働条件自体は他の業種から大きく劣るものではないものの（「令和5年旭川市労働基本調査報告書」）、製造業で男性従業員が多い職場の場合、更衣室、休憩室、トイレ、喫煙室などハード面の整備が追いついていないケースが散見される。

(2) キャリア形成の価値観

業種を問わず、ワークライフバランスを重視しながらも専門性の向上や責任ある役割を担いたいという傾向が強い。

(3) 必要とされるアドバイス

業種別のキャリアパスや専門性の開発支援についてのアドバイスができること、また育児とキャリアの両立を支援できることが重要である。

4 職種別

(1) 悩み事

事務職や営業職では労働環境や人間関係への不満が多く、育児関連の悩みも一般的である。一方、管理職や専門職では業務内容や責任負担に関する悩みが多く見られる。

(2) キャリア形成の価値観

責任ある役割を重視する一方で、「自分のペースでの仕事の進め方」を希望する職種も存在している。

(3) 必要とされるアドバイス

管理職や専門職にはリーダーシップやチームのマネジメントに関する相談サポートが望まれ、事務職や営業職にはストレスマネジメントを含む窓口が求められているといえる。